

IPM実践指標(露地すだち)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄			
			昨年の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点			
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。肥料は、樹勢や樹齢等を考慮して分施する。	1点			
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備するなどの改善を行う。	1点			
	植付時期	幼苗期に、極端に寒い時期には、こも等で防寒をしたり、防風林を植え苗の保護を行う。	1点			
	栽植密度	細部まで光が届くように適正な樹間を保つとともに、せい枝、剪定を行い、通風をよくする。	1点			
	適正な換気	施設栽培では内部が加温とならないように適正な換気を行う。	1点			
	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点			
		フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点			
		近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする	1点			
	作物の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点			
	地域での防除	地域で防除農薬や防除時期について検討し、一斉防除をおこない、病害虫の密度をさげる。	1点			
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前後で最低1回はクモ等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点			
	農薬の使用全般	樹齢や植栽密度などを勘案して、十分な薬効が得られる使用量と最適な散布方法を検討する。	1点			
農薬散布を実施する場合には、隣接して栽培する作物への飛散防止がないよう適正な措置を講じる。		1点				
作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMIに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点				
研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点				
個別項目	そうか病	剪定の際に被害枝葉を除去する。	1点			
	かいよう病	防風ネットの設置、防風樹の植栽とうの暴風対策を行う。	1点			
	ミカンハダニ	発生状況に注意し、発生初期に薬剤防除を行う。	1点			
	ミカンサビダニ	乾燥し、多発生が見込まれるときは、効果的な薬剤を散布する。	1点			
	黒点病	枯れ枝は園外へ持ち出して処理する。	1点			
	灰色かび病	落弁期に花弁ややくはできるだけふい落とす。	1点			
	ハマキムシ類	見つけ次第捕殺する。発生初期に生物農薬(BT剤)を散布する。	1点			
	ミカンハモグリガ	効果的な薬剤を輪番施用する(必ずIGR剤を活用する)。	1点			

IPM実践指標(露地すだち)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄			
			昨年の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
個別項目	ゴマダラカミキリ	見つけ次第捕殺する。防除ネットを巻き付ける。または、生物農薬(ハイオリサカミキリ)を施用する。	1点			
	シヤクトリムシ類	見つけ次第捕殺する。発生初期に生物農薬(BT剤)を散布する。	1点			
	ミノムシ	見つけ次第捕殺する。	1点			
	ヤノネカイガラムシ	病害虫防除所の発生予察情報に留意し、適期防除を行う。なお、天敵が見られない場合は寄生蜂ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチを放飼する。	1点			
	チャノキイロアザミウマ	被害の多い園では光反射シートによる地表面マルチを実施する。	1点			
	褐色腐敗病	水はけを良くし、適正な樹間を保つとともにせい枝、剪定を行い、風通しをよくする。	1点			
	コアオハナムグリ、ケシキスイ類	共通項目の励行(開花初期～満開期に効果的な薬剤を散布する。)	1点			
	カメムシ類	共通項目の励行(特に、適期防除に努める。)	1点			
	カネタタキ	適正な樹間とせい枝、剪定を行うとともに、除草に努め周辺の雑木等は伐採処分する。発生初期に効果的な薬剤を散布する。	1点			
	ウスカワマイマイ・ナメクジ	餌となる残さは持ち込まない。排水不良園では排水対策を行う。	1点			
		合計 点数				
		対象 IPM計				
		評価結果				